令和６年度　第２回石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会 議事録

要点筆記

■日時：令和６年９月19日（木）10時～11時15分

■場所：石狩市民図書館 視聴覚ホール

■出席者：下記表のとおり

委員		事務局	
役職	氏　名	所　属	氏　名
委員長	田岡　克介	社会教育部市民図書館館長	伊藤　学志
委員	石橋　孝夫	社会教育部市民図書館副館長	岩城　千恵
委員	村山　耀一	社会教育部市民図書館主査	工藤　一也
委員	三島　照子	社会教育部市民図書館主任	吉岡　律子
委員	志賀　健司	社会教育部市民図書館主任	大塚　隆宣
委員	工藤　義衛		

■傍聴者：なし

次第１ 開会

【事務局（大塚）】

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

定刻ですので、只今より「第２回叢書発刊編集委員会」を開会します。それでは、田岡委員長にご挨拶をいただきたいと思います。その後は、田岡委員長に進行をお願いします。

次第２ 委員長挨拶

【田岡委員長】

８月に開催した第１回の委員会で、次の第４巻は「石狩の油田」をテーマに進める方向性となっています。今年度は執筆を、令和７年度に印刷し、２年間かけて発刊するスケジュールを考えています。

今日の本題は、エピソード案や執筆者など検討になりますが、事務局が具体性をもって資料をまとめてくれたようです。委員の皆さまには、本日も忌憚のない意見をいただければと思います。

次第３(1) 石狩叢書第４巻の構成について

【田岡委員長】

それでは早速、本日の議題に入ります。

議題の一つ目は、「執筆者等謝礼金について」です。事務局から説明願います。

【事務局（大塚）】

それでは、提出しております資料１に基づき説明します。モニターにも表示しておりますのでご覧ください。この資料は第４巻の叢書を発刊する際、執筆料などの謝礼金について検討した内容です。前回の委員会で話題になりましたが、無償ボランティアも厳しい状況になっていることを踏まえた事務局案です。上段が前回第３巻の執筆料の算出で、これは東京都中野区の金額を参考に１エピソードにつき 15,000 円と設定させていただきました。

下段が第４巻の叢書を発刊する場合の執筆料の案です。テーマの特性から当時を知る方、或いは「石狩油田史」の執筆者である岩本さんなどに取材が必要となることから、取材・資料整理として、別枠で１エピソード当たり 3,000 円の謝礼金とするものです。

例えば執筆者が取材も同時にされる場合は１エピソードにつき 18,000 円。執筆だけの場合は 15,000

円、取材・資料整理のみされる場合は3,000円とするものです。なお、この単価につきましては明確な算定根拠はありませんが、昨年度までの上段「雑費・交通費・写真」と同額とさせていただきました。今年度の予算につきましては、当初予算で編集費616,000円を予算計上しておりますが、編集業務は令和7年度になる見込みですので、この編集費616,000円の一部を使うことで、財政部局とも協議をしております。以上です。

【田岡委員長】
ただ今、説明がありましたが、ご質問、意見等ありませんか？

【田岡委員長】
第3巻の総予算はいくらでしたか？

【事務局（大塚）】
謝礼金、印刷費、編集委託費などの合計で約160万円です。

【田岡委員長】
第4巻の謝礼金はどの程度になりますか？

【事務局（大塚）】
エピソードの数や謝礼金辞退の執筆者も想定し、総額で30万円程度の枠は財政部局とも合意がとれています。

【工藤委員】
そうしますと、約20名程度の執筆者になりますね。

【田岡委員長】
ボリュームなどの問題もあるし、この委員会で金額を決めるというよりは、確認したという整理になります。具体的には個々のケースに併せて対応が必要ですね。

次第3(2)石狩叢書第4巻の構成について

【田岡委員長】
それでは議題の二つ目「具体エピソードについて」です。事務局から説明願います。

【事務局（大塚）】
それでは、提出しております資料に基づき説明します。資料2になります。第4巻の叢書については2年をかけて発刊したいと考えています。石狩の油田の構成として記載していますが、委員長や志賀委員ほか皆さんにアドバイスをいただきながら資料を作成しております。
まず、導入部分は「石狩で油田が見つかる」「海に油が浮いてる」といところから入りまして、具体エピソードの大きなカテゴリーを5つ掲載しています。時系列にはあえてしていませんが、「1の黎明期」は幕末の発見に関わる荒井金助など歴史的な観点です。
次は「2の産業」です。当時の八の沢鉱業所の事業が大きな産業であった事、ピーク時の状況、手稲軽川までパイプラインでつながっていたことなど、当時の様子を産業史として捉えることを考えています。
次は、「3の生活」です。最盛期の鉱業所の暮らしぶり、旧八の沢小学校の様子、伊夜日子神社、石狩空襲にも触れていただくのはどうかと考えました。
次は「4の地形地質」です。石油はどうやってできるのか、地球の営み、地層など、沢山の不思議を執筆していただいてはどうか考えています。
最後は「5の活動」です。八の沢のピークから終焉まで、平成12年建立の記念碑や鳥瞰見取図、また現在でも草刈りなどを続けられているというエピソードなどを執筆いただくのはどうかと考えました。そして、まとめとして油田があった事を伝承していくという構成にしています。
このエピソードは大まかなイメージですので、実際に執筆される段階で実際のタイトルに変化していくと考えられます。

また、田中實先生の資料については、段ボール１箱と写真帳が３冊ありますので、壁側の机に置きました。三島委員に大枠の整理をいただき、石橋委員には詳細の資料整理と評価をいただきました。後ほど回覧いたしますが、亡くなられた中村秋雄さんの自分史は、そのまま掲載できる内容だと事務局としては考えています。

また、今回キーとなる「石狩油田史」の岩本龍夫さんに事務局で会いに行ってきました。取材などのご協力はいただけるようですが、耳が遠いのと、足が少し不自由な状況でした。油田史以外でのあらたなエピソードは少ないようですが、自分史を少し書き溜めている様子でした。この自分史も今後検討していただくことになると思います。私からは以上です。

【田岡委員長】

今説明があった中でこの部分は違う、或いは進め方についてなど、皆さんどうでしょうか？

【事務局（大塚）】

事務局としましては、今回の案を作る際に、石狩油田史や新聞などからキーワードを並べておりますので、実際には岩本さんの取材を経て少しずつ出来上がってくるものと考えます。

【田岡委員長】

ここに記載している「八の沢石油友の会」は今でも活動を続けていますか？

【工藤委員】

存在はしますが、高齢になり活動は難しくなっていると思います。

【田岡委員長】

このエピソードは、私が書けるという方はおりませんか？次の議題も関連してきますので、合わせて説明してもらった方が良さそうですね。

次第３(３)石狩叢書第４巻の構成について

【田岡委員長】

それでは、議題三つ目は、「執筆者、取材者について」です。事務局から説明願います。

【事務局（大塚）】

資料３、Ａ３の資料になります。先ほどのエピソード案について、誰に執筆していただけるのか？誰に取材していただけるのか？という表で、この委員会での審議を踏まえて表を完成していきたいと思っています。

大変失礼ですが、たたき台が必要かと思い、勝手に名前を記入しておりますのでお許し願いたいと思います。

事務局案としては、

NO１の最初の導入部を志賀委員にお願いしたいと思います。

NO２～３の黎明期については、歴史的な専門家という点で石橋委員にお願いしたいと思います。

NO４～11の産業につきましては、歴史、産業史のご専門の工藤委員にお願いしたいと思います。また、山田考古学会会長から大きな捉えで執筆していただくことも必要かと思っています。

NO12～18の生活につきましては、田岡委員長と三島委員、文化財の坂本さんにお願いしようと思っています。また、岩本さんの取材内容を書き下ろす、或いは中村秋雄さんの自分史を掲載する検討も必要と思っています。

NO19～24の地形地質については、専門家の志賀委員を中心に大河内先生や北大の鈴木先生に依頼できるのかどうか検討が必要です。

NO25～29の活動については、村山委員、岩城副館長、吉岡さんにお願いしたいと思います。このカテゴリーも岩本さんの取材内容を書き下ろすエピソードの検討が必要になります。

NO30のその他として、今回の叢書には年表があったほうが良いとの提案から、吉岡さんにお願いしたいと思っています。

NO31の纏めは、田岡委員長にお願いしたいと思います。

また、今回取材が大変ですが、経験値が豊富な三島委員に是非お願いできればと思います。

【田岡委員長】
議題を少し戻しますが、石油資源に関する資料を執筆する必要がありますね。当時の鉱区の図面は、叢書にする上で必要になります。石油資源開発公庫が今でもあるか定かではありませんが、承継している団体があるはずです。帝国石油の資料もそこにあるかもしれない。サハリンの石油開発の際に東京で話をした記憶があります。どこに図面があるかな？

【事務局（大塚）】
日本石油百年史には図面はありませんでした。

【事務局（岩城副館長）】
石狩油田史に図面は掲載されております。

【田岡委員長】
その図面とは少し違います。鉱区の権利申請書が記載されている図面になります。採掘権です。

【三島委員】
帝国石油とか、掘る人の権利のことですね。

【田岡委員長】
昭和 60 年代に、石狩沖の海底油田の膨大なデータがあり、今の南線小学校の下までボーリングした記憶があります。

【事務局（岩城副館長）】
石狩油田史によると、国策により日本石油㈱から帝国石油㈱に運営が引き継がれたと記載されています。これにより昭和 17 年、殆どの油田が帝国石油の運営に変わったと記されています。

【田岡委員長】
当時の鉄道がどこまで敷設されているかなど、今回明らかに出来たら良いですね。

【三島委員】
鉄道の件については、あるお宅で図面があると聞きました。

【村山委員】
しかし、結局は存在しなかったと聞いています。何とか発見したいということで何度も尋ねました。

【三島委員】
足を運びましたが、見つかったのは軌道のレールではなく工事用の鉄板でした。
鉄道はあったようですが、掘り上げて売却したとも聞いております。

【田岡委員長】
来札の入り口、木工所のあたりに終点があった事は記憶しています。
記憶があるところは執筆できますが、図面が欲しいですね。そのあたりを探る必要があります。

【石橋委員】
事務局で項目を設定してくれましたが、何頁くらいになりますか？

【事務局（大塚）】
第３巻では約 40 エピソード、240 ページ程度になったのですが、今回は仮に 30 エピソードとし

ているので、ページ数は減少します。

【石橋委員】
資料調査は大変ですが、事務局でやってくれますか？

【事務局（大塚）】
可能な限りやります。

【事務局（岩城副館長）】
帝国石油が吸収合併されておりますので、そのあたりを調べる必要があります。

【事務局（吉岡主任）】
2008年に帝国石油㈱が国際石油開発帝石㈱に吸収合併されて、いまは社名を変更しINPEX（インペックス）という会社になっています。

【石橋委員】
ネットで検索出来ればいいのですが、そうでなければ資料があるところまで足を運ばなければなりません、例えば東京だとか。

【田岡委員長】
東京に行かなければ分からないかもしれませんね。大学経由、研究者経由で調べる方法もありますね。

【石橋委員】
デジタルアーカイブが見られるようであればいいですね。今回の叢書で、荒井金助は別にして黎明期のところであれば私が書くことはできますよ。

【事務局（岩城副館長）】
有難うございます。

【工藤委員】
エピソードの執筆者欄に複数名前が挙がっている場合、どのように対応すれば良いでしょうか？二人で書いた方が良いですか？

【事務局（大塚）】
そのあたりは、今後の検討になります。その先生方への最初のアプローチはしていただきたいなとは思います。

【工藤委員】
岩本さんの自分史は、事務局としては掲載しようと考えていますか？

【事務局（大塚）】
可能であれば掲載したいと考えています。

【田岡委員長】
茨戸油田の関係でも聞き取りが必要ですね。温床のほかにガスを使って生活していたと聞いているので、複数知っている方もいるようです。

【事務局（大塚）】
事務局でたどってみます。

【三島委員】

私も知人がいますので、事務局と一緒にお付き合いします。

【田岡委員長】
おおよそ、この原案で進め、動きながら修正を加えていくのはどうでしょう。途中事務局には委員会を開いてもらうなり、情報共有を図るなり、都度考えていっては如何でしょうか？

【三島委員】
この油田の発掘によって高岡、八幡の町の様子はどうなりましたか？

【田岡委員長】
八の沢に生活物資を供給したのは八幡なので、八幡の商店街は明らかに変わりました。米とパンはトラックで運びましたが、八の沢にも購買部があった事を記憶しています。

【志賀委員】
そのあたりの八幡の様子などを１エピソードとして加えるというのはどうでしょうか？

【田岡委員長】
そこは、私が書こうと思っています。当時、野球が強かったとか色々エピソードはあります。

【田岡委員長】
石狩空襲は今回の油田に大きな関係性はありますか。石油があるから空襲を受けたとかでしょうか。

【工藤委員】
そのあたりは、違う可能性が高いと思います。

【三島委員】
小樽を攻撃した後に、残ったミサイルで石狩をねらったと聞いていますが、それは当時の海浜ホテルや沿岸部だと思います。

【石橋委員】
原稿の締め切りは今年度末の３月 31 日ですか？

【事務局（大塚）】
はい、そうです。この先岩本さんの取材をしていきますが、それらを纏めたものを皆さんと情報共有したいと考えています。録音したものを事務局でテープ起こしします。同時に厚田油田の関係も取材を進めていきたいと思います。

【石橋委員】
厚田の取材の時に、聚富の地名で「油山道」というところがどこか確認してください。字名でそういう名前があると聞いており、もしかしたら油田に関係するかもしれませんので。

【事務局（大塚）】
了解しました。

【田岡委員長】
石狩の鉱脈を見つけたのは、荒井金助と言われていますがこれは正しい情報ですか？

【石橋委員】
その情報は正しいと思います。

【工藤委員】

海に油が浮かんでるというのが、始まりですが場所は聚富です。そこから山の方にあると予測して発見したと言われています。

【三島委員】
荒井金助逸伝に記載があったと思います。

【村山委員】
私は文化のエピソードを書くことになっていますが、他のカテゴリーよりは書きやすいかなと思っています。３人いるので相談しながら進めていきます。

【田岡委員長】
手稲軽川の関係ですが、手稲に地域資料などはないのでしょうか？

【石橋委員】
手稲史にはあると思います。

【工藤委員】
手稲駅の近くの製油所の話が出てくると思います。

【村山委員】
私は小さいころ、手稲に住んでいたのですが、手稲駅裏の踏切の近くに日本石油があって、そこを通りながら小学校に通った記憶があります。当時、日本石油の施設に石狩の油田が運ばれているとは知りませんでした。

【三島委員】
手稲郷土研究会に、そのあたりを聞いてみるのがいいと思います。帝国石油の製油所のタンクとか資料があるかどうか？

【事務局（吉岡主任）】
研究発表の資料があるかどうか、少し調査してみます。

【村山委員】
子どもの頃、線路沿いに石油を運ぶ丸いタンクがよく停まっていました。

【田岡委員長】
当時は、手稲駅の横にオーシャンという焼酎の会社もありました。

【志賀委員】
岩本さんと、中村さんの自分史があるのですね。岩本さんの意思は聞いていますか？

【事務局（大塚）】
岩本さんは自分史を少し書き溜めていると聞いています。今回の油田史に馴染むのであれば、確認を取りたいと思います。

【三島委員】
中村さんは亡くなっていますが娘さんがいまして元気だと聞いています。

【工藤委員】
中村さんは「いしかり暦」に執筆されていますね。

【志賀委員】

少し気になったのが、岩本さんご自身が、何もいじられずに出版したいとか、他の原稿と一緒にしたくないとか、そのあたりはどうなんでしょう？

【三島委員】
協力的な方だと思いますよ。

【事務局（大塚）】
岩本さんには叢書３冊とこの委員会の名簿をお渡ししました。基本的には協力していただけると思います。取材の協力はいただけるようです。

【田岡委員長】
当時、八幡の中に、どのような帝国石油の建物があったか、輸送ルートはどうだったかを岩本さんに聞く必要がありますね。八幡の地図を持っていった方がいいと思います。

【工藤委員】
書きぶりは読み物でいいですね。

【事務局（岩城副館長）】
小学校高学年が読めるようにしていただければと思います。

【志賀委員】
読み手のターゲットをどこに置くかは意志の統一が必要ですね。小学校高学年に絞りすぎると大人にはつらいので、このあたりは気をつけなければなりませんね。

【田岡委員長】
前回、志賀さんほか皆さんが執筆してくれた内容は、とても読みやすく良かったと思います。

【三島委員】
叢書のコンセプトとして小学校高学年が読めるように基本を設定しましたが、テーマによってはその時々で多少の変化はあっていいものと思います。ただ、今の小学生は優秀ですから読みますね。専門用語は気をつけなければなりませんので、委員会や事務局で注意していくべきと思います。

【田岡委員長】
今回で大変なのは、茨戸油田の情報をどう集めるかです。私も色々人脈をあたっています。

【三島委員】
私も、友人をあたってみます。

次第３（４）石狩叢書第４巻の構成について

【田岡委員長】
それでは、議題の四つ目は、「その他」です。事務局から何かありますか？

【事務局（大塚）】
特にありません。

【田岡委員長】
その他、質問がないようでしたら、本日の審議については、これで終了したいと思いますが、よろしいでしょうか。
委員のみなさまにおかれましては、ご審議を賜りありがとうございました。

令和６年 10 月 3 日　議事録確定

石狩市教育委員会叢書発刊編集委員会　委員長　田口吉今